

<水稲の栽培ポイント>

生育状況

普通植とちぎの星は8月中下旬、あさひの夢では8月下旬に出穂期を迎えました。普通植の生育は平年より1～3日程進んでいるようです。成熟期を迎える10月上旬～中旬の天気は数日周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多く気温も高い見込みで、降水量は平年並みで気温は平年並みか、高いと予想されます。刈取り適期が数日早まる可能性が高いので、早めに刈取り準備に取りかかり、適期収穫に努めましょう。

1 刈取り準備

- ・コンバインや乾燥機・調製機の清掃整備を行い、異種穀粒・異品種の混入が無いようにしましょう。

きちんと掃除したつもりでも、機械の中にはゴミが驚くほど残留しています。

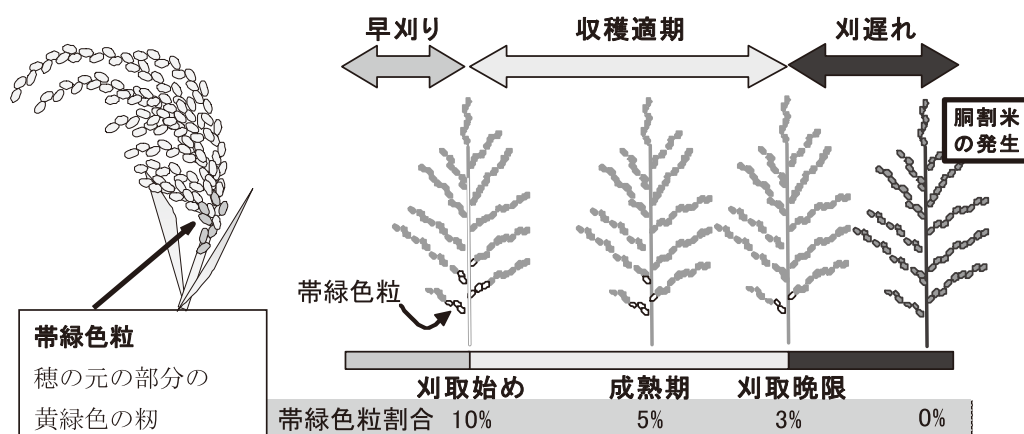
- ・圃場内の雑草は刈取り前に抜き取り、雑草の種子が混入しないようにしましょう。ライスセンターでは雑草種子などの夾雑物の多いものについては荷受をお断りする場合があります。

2 適期収穫

収穫作業は、帯緑色粒率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。刈り遅れの無いよう注意してください。刈り遅れると胴割米の発生、色沢・品質・食味の低下を招きます。また早刈りは青米が多くなり減収となりますので注意しましょう。

【刈取適期の判定方法】

- 平均的な生育をしている数ヶ所で5～6本の穂をまとめて握ってみます。
- 穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定します。10～3%が刈取適期です。



3 新規需要米について

新規需要米についても、主食用米と同様に刈取り準備、圃場内の雑草の抜取りを行いましょう。

(裏面あり)



<麦類の栽培ポイント>

湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

1 湿害対策の徹底

- (1) 稲刈り後の弾丸暗渠による早期の排水性向上が有効です。プラソイラ等を活用した心土破砕も圃場の排水性を良くします。
- (2) 地表水の排水のための明渠を設置します。明渠は必ず圃場外の排水路とつなげてください。

2 土づくりと施肥

- (1) 地力増進のため、良質な堆肥を10a当たり1,000kg程度施用しましょう。また、苦土炭カル、苦土重焼りん、OM-37等も施用しましょう。
- (2) 施肥では、肥効調節型肥料（JA足利麦専用「麦の香」等）を使用しましょう。小麦は低タンパク傾向が続いており、基準施肥量（窒素成分10～11kg/10a）を参考に、H30年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。オール14など、即効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育量に応じて茎立期前の追肥を検討しましょう。
※二条大麦の追肥については、適正タンパクにおさめるために絶対に行わないでください。

3 適期播種・種子消毒

【播種期間の目安】 小麦：11月10日～20日 二条大麦：11月15日～25日
二条裸麦：11月1日～11月15日

生育を良好にし、高品質麦の安定生産を図るため、適期に播種しましょう。

また、大麦斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病などの種子伝染性病害予防のため、種子消毒を必ず実施しましょう。（例：ベンレートT水和剤20、ホームイ水和剤）

4 雑草防除

播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

雑草の種類	除草剤名	使用時期
一年生雑草	ボクサー（乳剤）	播種後～麦2葉期まで 但し、小麦は麦4葉期まで （雑草発生前～雑草発生始期）
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	リベレーターG（粒剤）	播種後～麦2葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	ムギレンジャー乳剤	播種後～出芽前（雑草発生前）
	クリアターン乳剤、細粒剤F	播種直後（雑草発生前）
一年生雑草（ツクサ、ヤツリガサ、キ・アブナ科を除く）	トレファノサイド乳剤	播種後・出芽前または生育期（収穫45日前まで）雑草発生前に散布。

※ボクサー・リベレーターフロアブル・G（粒剤）・ムギレンジャー乳剤は、抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して適用作物・使用時期・施用薬量を守り正しく使用してください。